

ふるさとの魅力発信！

松浦高校放送部が CM 大賞でグランプリ

第9回NCCふるさとCM大賞で見事にグランプリを獲得した松浦高等学校放送部が3月19日、受賞報告のために市役所を訪れました。同校は前年もユニーク賞を獲得しており、2年連続の受賞となります。

グランプリ作品の「ブドウの街 松浦」は、本市の特産品であるブドウと今年10月に本市で開催される長崎がんばらんば国体のなぎなた競技（武道）をPRする作品となっています。

この作品は、グランプリの副賞として、4月からの約1年間で100回無料放送される予定です。生徒たちが30秒間に込めたアイデアたっぷりの映像を楽しみにご覧ください。



まちの話題

Matsuura City Topics

地域を火災から守る

上志佐ジュニア消防クラブ入・退団式

市内には小学生を中心に組織される8つのジュニア消防クラブがあり、毎年、卒業式の時期に新たな体制へ引き継がれます。

3月13日、上志佐小学校体育館で上志佐ジュニア消防クラブの入退団式が開催されました。

今回の入退団者は18名。式では、旧団長から新団長への団旗の引き継ぎや、入団者への任命状と団員手帳の交付などが行われ、入団者は、今後の防火活動へ気を引き締めていました。



いつまでもお元気で

3月に市内では、新たに3人が100歳の誕生日を迎えました。

3月16日に100歳の誕生日を迎えた七種ツヤ子さん。若いころは、むしろ作りや魚売りの行商をしたり、得意な料理を生かして病院や保育所で食事を作ったりしていました。現在は、趣味の編み物や貼り絵を楽しみながら、自宅でのんびりと過ごしています。

3月21日には、川畑キヨミさんが入所中の介護老人保健施設よかところで100歳を迎えました。川畑さんは実家が農家ということもあり、若いころから農業に従事し、時には建設関係の仕事にも携わるなど、とにかく働き者で

した。現在は、施設内でほかの入所者との会話やレクリエーションなどを楽しみながら過ごしています。

また、3月29日には、松本静枝さんが入院中の武部病院で100歳を迎えました。農家に嫁いでは米や野菜作りに忙しい毎日を過ごし、90歳を過ぎるころまで畑に出向いて草取りをするなど農業一筋に歩んできました。現在は、歩行が困難なためベッドで過ごす時間が多くなりましたが、食欲も旺盛で病気もなく元気に過ごしています。

100歳を迎えた3人の皆さんは、それぞれに家族や関係者に囲まれながら、温かな祝福を受けていました。



▲写真左から、七種ツヤ子さん、川畑キヨミさん、松本静枝さん

楽しい英語の時間

インターナショナルムービー&ミュージックデー

3月25日にきらきら21で、インターナショナルムービー&ミュージックデーが開催されました。

この日は、主に小学生とその保護者約40人が参加。映画「HAPPY FEET」が英語で上映された後、みんなでALTと一緒に英語の歌を歌いました。

参加した子どもたちは、普段あまり馴染みのない英語に少し戸惑いながらも、すぐに慣れた様子で、帰るころには楽しそうに英語の歌を口ずさんでいました。



災害時の初期活動を支援

長崎県LPガス協会

一般社団法人長崎県LPガス協会（田中善一郎会長）が3月25日、松浦市消防本部にLPガス発電機3台を寄贈しました。

この日は、同協会松浦支部（吉野政男支部長）の役員など5人が消防本部を訪れ、諸石消防長に目録を渡しました。

発電機の寄贈は、同協会が県と、同支部が市と締結した災害支援協定に関連して行う地域貢献活動の一つで、今年度から県内の消防署などを対象に実施しています。持ち運びができ、燃焼効率の高い気体燃料であるLPガスの利点を生かし、迅速な対応が求められる災害時の初期活動を支援するものです。

今回寄贈された3台の発電機は、松浦消防署の本署と福島・鷹島の両出張所に配備されます。



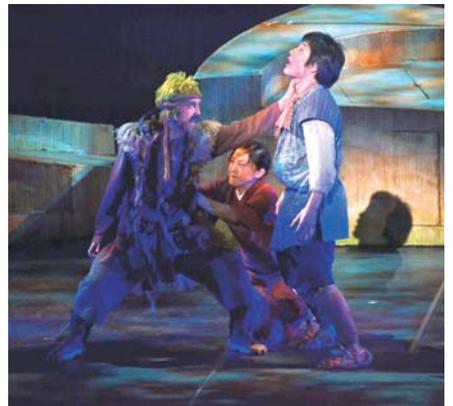
迫力の舞台に感動！

わらび座公演「遠野物語」

秋田県を本拠地に全国で活動している劇団「わらび座」の舞踊詩「遠野物語」が3月19日、文化会館で公演されました。

この物語は、岩手県遠野地方に伝わる民話や伝説を編纂した柳田國男の名作「遠野物語」をベースに舞台化したもので、船上で津波に遭い最愛の人を失った男を主人公に、森羅万象の中で生きる人たちが予期せぬ出来事に翻弄されながらも知恵と勇気を持ってたくましく生きる姿を描いたものです。

会場に集まった約350人の観客は、劇団が作り上げる壮大な世界観と迫力ある演技を存分に楽しんでいました。



幻想的なお彼岸行事

おこぼ様

志佐町赤木地区にある落合おたやの洞窟で3月21日、無病息災を願う彼岸行事「おこぼ様」が行われました。「おこぼ様」は「弘法様」がなまったものといわれ、同地区の彼岸行事として古くから受け継がれてきました。

高さ約2尺、幅約30尺、奥行き約10尺の洞窟には、入口に弘法大師が祭っており、奥には約40体以上の地蔵が並んでいます。

この日は、ろうそくの明かりに照らされた洞窟に地区の住民が参拝に訪れ、無病息災を祈願しました。

